

平成2年度 和歌山県文化奨励賞

むら かし ひろし
村 上 博 (筆名 つじ はら のぼる 辻原 登)

住 所：兵庫県神戸市

出 身 地：和歌山県日高郡印南町

生 年：昭和20年

■主な表彰歴

平成2年 第103回芥川賞受賞

◎業績及び経歴

和歌山大学学芸学部(現教育学部)附属中学卒業後、大阪学芸大学附属高校に進む。上京。文化学院で桂芳久、戸川エマ、桑山修氏らに師事。

「第2次文学共和国」以外同人誌活動は行わず、商社に勤務しながら、執筆活動を行う。昭和60年『犬かけて』が第94回芥川賞候補となり認められる。平成2年『村の名前』で第103回芥川賞を受賞。今後有望な作家である。

現在もソフトウェア会社に勤務しながら執筆活動を継続、文芸誌に年2、3作の小説を発表。作品は、純文学であり、フローベール、カフカ、永井荷風、大岡昇平氏らの影響を強く受け、手法的には、ヨーロッパのリアリズム文学と日本の物語文学の伝統を融合させた独自の小説世界の構築をめざす。

すぐれた作品の創造を通して、文化の向上に尽くした功績は大きい。